



内閣府（防災担当）

令和元年台風第19号等による災害からの 避難に関するワーキンググループ (第1回) 議事要旨

1. 日時

令和元年12月18日(水)10:00～12:30

2. 出席者

田中(淳)主査、石川委員、牛山委員、片田委員、鈴江委員、清水委員、執印委員、首藤委員、立木委員、田中(仁)委員、坪木委員、中貝委員^{*}、山崎(登)委員、吉谷委員、行政委員(内閣官房(国土強靱化推進室)、内閣官房(事態室)、消防庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省^{*}、林野庁、国土交通省、国土地理院、気象庁)

武田内閣府特命担当大臣(防災)、平副大臣、青柳政策統括官(防災担当)、

村手官房審議官(防災担当)、小平官房審議官(防災担当)

※代理出席

3. 議題

- (1)ワーキンググループの設置
- (2)台風第19号等の概要
- (3)現地調査・ヒアリング結果
- (4)ワーキンググループで検討する論点(案)

4. 議事要旨

○各委員よりいただいた主なご意見は下記の通り。

- 今あるものが十分機能していない部分がどこなのか。それを機能させるためにはどうしたらいいのか、日常的な社会生活の中で関心を持ってもらえるようにそのプロセスを考えるべきである。
- 住民の判断や行動をサポートする適切な情報面の工夫をしていく必要がある。
- 避難にあたってどこが危険なのか、ハザードマップの充実と理解を十分進めることが非常に重要である。
- 国管理、県管理に関わらず、住民の方が一律にある程度信頼できる水位のデータを出していくことが必要である。

- 助言システムの枠組みを明確にすべきである。
- 避難勧告と避難指示が警戒レベル4で同列にならんでいることについて、情報の伝えにくさ、受け取る側のわかりにくさというのが依然として残っているのではないか。
- 地域のレジリエンスの底上げを図る必要がある。地域の防災リーダーの育成を強力に進めていく必要があり、そのサポートが必要だ。
- 雨風激しい時に車で移動していたことが危険だということを周知すべきである。不要な外出を少しでも抑制するというのではないか。
- 特別な対応が必要な避難要支援者の避難について、責任の明確化が必要である。ただ、健康加齢者の方は地域に任せていくべきである。
- ケアマネージャーに、業務として個別避難支援計画づくりに関わって頂くことはできないか。根本的な対策は、縦割りになっている防災と福祉、あるいは地域医療の問題をインクルージブに取り扱わないと、この問題は解決できない。
- 中長期的に考えていかななくてはいけないことと、来年3月までに整理をしてしまうことを整理して議論を進めることが重要である。
- 広域避難の議論はまだ緒に就いたばかりで、一部議論をし始めているだけである。これはかなり真剣に議論がなされるべきである。
- 避難所と避難場所の違いについて、一般住民がどこまで理解しているか。また、避難所や避難場所が唯一の、あるいは最善の行き先ではなく、親戚・友人宅、ホテル、旅館等、よりよい環境の場所へ自ら行くことも大事だ。

以 上